

伸銅品

平成16年の伸銅品需要は、104万8千トンで前年比5.1%増、4年ぶりに100万トン台を回復した。内需・輸出向け共に12年以來の高めの水準となった。とくに上期のウエイトが高かった。

金属製品は日用品や水栓金具などの盛り上がりにより乏しく、またガス機器も電化の影響を受け、全体としてほぼ横ばいに留まった。

電気機械は上期の回復基調が支え、コネクタは12年に次ぐ過去第2位、配電制御装置は第3位、半導体は第4位の水準まで戻すなど、内需回復を支える主要分野となった。

輸送機械は自動車向けが年を通じて堅調な水準を維持し、二桁近い回復レベルを示した。

精密機械は市場は回復には至らず低水準横ばい。

一般機械は空調機器に夏場の猛暑の影響も見られたが、エアコン生産面には余り響かず、バルブ・コックなども若干の回復に留まり、微増に終わった。

その他製造業は電線被覆は横ばい、コインなどは堅調に推移した。

建設業は市場縮小傾向に依然歯止めがかからず、昭和60年以降の最低水準、ピークの約4割と低迷し、唯一前年割れの分野となった。

その他市況品は年初来の原料価格上昇と景気動向にも影響され、若干持ち直した。

このため内需合計は自動車・電機に支えられた板条圧延製品の回復と、銅管や黄銅棒も微増を維持、若干の底上げとなった。

輸出は板条製品が総じて堅調、銅管や黄銅棒など主要品種もわずかに回復した。

電線

平成16年の銅電線・ケーブル需要は、83万4千トン・対前年比プラス4.1%で4年ぶりの増加となった。

通信部門はNTTの設備投資圧縮と光化の進展で長期減少傾向が続いているが、ほぼ最低需要の水準に近づいているとみられる。

電力部門は、電力供給力に余裕があることや、自由化等への対応で電力各社が投資抑制を続けており、また大型送電線件名もないことから電線需要は引き続き減少している。

電気機械部門は、電装品向けとデジタル家電やIT関連の好調を受けた電子通信向けが大きく伸び、海外シフトの影響を受ける家電向けが低調であったものの全体として前年比プラス5.6%と好調に推移した。

自動車部門は、自動車生産の好調を反映し、電線需要量は4年連続して前年比プラスと好調を持続した。

建設・電販部門は、景気の回復基調を受けて民間企業設備投資が堅調に推移したことに加え、年初の鋼高値の影響もあり電線需要は好調に推移し、2年連続して前年比プラスとなった。

その他内需部門も建設・電販部門と同様、民間企業設備投資動向と関連が深い部門であり、大幅な伸びを示した。

輸出部門は、東南アジアにおいては現地メーカーの台頭、海外勢との競争激化により状況は厳しいが、一部大口件名もあり微減にとどまった。

鉱山

平成16年の我が国の電気銅生産は3.5%減の138万トンと平成11年以來の低水準にとどまった。前半半にかけて世界的な原料精鉱不足に見舞われたほか、後半にかけては一部製錬所の操業停止、精鉱品位の低下、台風被害、一部製錬所の改修工事などが相次いだことによるものであった。

消費は報告値が6.1%増の122万9千トン、過欠補正を加味した見掛値は6.3%増の127万9千トンと3年連続で増加し、平成12年以來の水準まで回復した。

平成16年の我が国経済は、企業収益の大幅な改善に伴い、民間設備投資が堅調を持続し、雇用環境も持ち直す動きが見られ、個人消費は底堅く推移するなど、前年に引き続き民間需要主導で緩やかながらも回復軌道を進んだ。こうした経済環境のもと、銅の主要な需要産業のうち、建設業は官公需が引き続き低迷を余儀なくされた反面、首都圏ではインテリジェンスビル建設ラッシュに沸いた。自動車は内需、輸出ともに好調を持続した。電気機械は携帯電話、デジタル家電、DVDなどのIT関連需要が前年来の好調を引き継いだ。

電気銅の用途別消費(報告値ベース)は、電線向けが6.4%増の75万9千トンと増加に転じ、伸銅品向けは6.8%増の44万6千トンと3年連続で増加した。ただし、年終盤にかけてはIT産業の世界的な在庫調整局面入り懸念材料として浮上した。

輸入は11.2%増の8万8千トンと、内需増見合いで9年ぶりに減少傾向に歯止めがかかった。輸出も内需増に伴い32.9%減の19万5千トンと3年連続で減少した。

この結果、在庫は11万1千トンから10万5千トンへと4.9%減少し、在庫/消費比率は4.3週間分とタイトな状況が続いた。

平成16暦年伸銅品出荷実績 単位:千トン

部門	暦年 15暦年 実績	16暦年実績			前年比 %
		上期	下期	合計	
金属製品	140.4	71.3	71.3	142.6	1.6
電気機械	270.4	146.9	143.0	289.9	7.2
輸送機械	66.3	36.0	36.8	72.8	9.8
精密機械	12.8	6.4	6.6	13.0	1.2
一般機械	139.9	79.6	63.9	143.5	2.5
その他製造	66.3	35.9	34.1	70.0	5.7
建設業	25.6	12.5	11.6	24.1	▲5.8
その他内需	99.9	52.9	52.5	105.4	5.5
内需計	821.6	441.5	419.8	861.3	4.8
輸出	175.0	95.8	90.5	186.3	6.5
合計	996.6	537.3	510.3	1,047.6	5.1

(注)前年比は数量を丸める前の原伸び率。
(出典)経済産業省統計

平成16暦年銅電線・ケーブル出荷実績 単位:千トン

部門	暦年 14年 実績	15年 実績	16年実績			前年比 %
			上期	下期	合計	
通信	19.7	19.7	8.8	9.7	18.6	▲5.5
電力	79.2	72.4	37.4	31.8	69.2	▲4.4
電気機械	195.1	194.8	102.3	103.4	205.7	5.6
自動車	71.4	75.4	39.1	39.5	78.7	4.4
建設・電販	347.5	353.9	178.6	193.0	371.7	5.0
その他内需	61.5	54.2	29.4	30.5	59.9	10.5
内需計	774.4	770.4	388.8	407.9	803.7	4.3
輸出	39.2	31.2	14.5	16.4	30.9	▲1.1
合計	813.6	801.6	410.3	424.3	834.6	4.1

(注)前年比は数量を丸める前の原伸び率
(出典)電線工業会統計

平成16暦年電気銅需給実績 単位:千トン

部門	暦年 15暦年 実績	16暦年実績			前年比 %
		上期	下期	合計	
期初在庫	93.5	110.5	119.7	110.5	18.2
生産	1,430.4	695.1	685.0	1,380.1	▲3.5
国内鉱出	1.5	0.8	0.0	0.8	▲46.7
海外鉱出	1,250.3	593.9	593.8	1,187.7	▲5.0
その他出	178.6	100.4	91.2	191.6	7.3
輸入	78.8	45.5	42.1	87.6	11.2
供給計	1,602.7	851.1	846.8	1,578.2	25.9
消費(報告値)	1,158.2	606.0	623.4	1,229.4	6.1
消費(見掛値)	1,202.4	634.3	644.2	1,278.5	6.3
電線	713.7	370.4	389.0	759.4	6.4
伸銅品	417.6	224.9	221.1	446.0	6.8
その他	26.9	10.7	13.3	24.0	▲10.8
輸出	289.8	97.1	97.5	194.6	▲32.9
需要計	1,448.0	703.1	720.9	1,424.0	▲1.7
期末在庫	110.5	119.7	105.1	105.1	▲4.9
過欠補正	44.2	28.3	20.8	49.1	

(出典)経済産業省